

✈ 海外生活 だより

ソウル事務所

韓国在住日本人の強い味方！ ～ソウルジャパンクラブ(SJC)の取り組み～

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所所長補佐
飯村 恵理子 (茨城県派遣)

海外に住んだことのある方は（あるいはそうでない方も）、「日本人会」という言葉を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。ここソウルにも、ソウルジャパンクラブ（SJC）という組織がありますが、SJCは他国の日本人会とは一味違った活動をしています。今回は、韓国内最大級の日系コミュニティであるSJCについてご紹介いたします。

日本人会+商工会議所=SJC

SJCの一番の特徴は、いわゆる一般的な「日本人会」機能（海外に長期在住する日本人の交流会）に、「商工会議所」機能が一体化している点です。そのため、SJCの活動は、会員個人々の生活サポートにとどまらず、法人に対する経営活動支援も一体的に行っています。

SJCの前身となった日本人会は、日韓国交正常化の翌年である1966年に設立され、その後1997年に、法人組織である、日本商工会、JV（ジョイントベンチャー（合弁企業など））会の3つの機関が統合しました。会員数は今も増加傾向にあり、法人会員は約400、個人会員は約2,000となっています。会員が韓国でより充実した生活を送ることができるよう、「法人活動サポートグループ」、「個人活動サポートグループ」というグループを組織し、年間を通してさまざまな活動を企画・運営しています。

法人活動のサポート ～より快適な経済活動を目指して

韓国には、距離的要因もあり非常に多くの日系企業が進出しています。「法人活動サポートグループ」では、約400の法人会員が業種ごとに8つの「分野別委員会」を組織し、各委員会において定

期的に情報交換や研修を行っています。同業種であるからこそ、抱える悩みや課題も近いもの。お互いに知恵を出し合い助け合うことで、韓国における経済活動の円滑化を図ります。

特に好評なのは、韓国内の企業や工場などへの視察研修です。個々の企業からの要請ではなかなか実現の難しい企業視察も、SJCとしてなら受けてもらえる、というケースもあるため、貴重な機会を提供することができているのです。



法人研修で釜山・LGデータセンターを視察

さらに、日本をはじめとする外国企業にとっても、また韓国企業にとってもよりよいビジネス環境を構築できるよう、毎年、韓国政府に対する政策提言を行っています。どのような問題点について提言を行うかについても、分野別委員会において検討されています。

SJCは韓国産業通商資源部長官（部は日本の省に相当）と定期的な懇談の機会をもっており、常日頃から韓国政府との意思疎通を図っています。政策提言も、SJCだけではなく、欧米の商工会議所などと共同で行われることもあり、在韓日系企業の集合体として重要な役割を担っています。

個人活動のサポート ～韓国社会をもっと身近に

SJCによる個人サポート活動は、単に日本人コミュニティとして内向的に集まるだけではなく、日韓両国の相互理解と社会貢献に積極的に努めています。例えば、毎年秋に開催される「日韓交流おまつり」（詳細は『自治体国際化フォーラム296号』を参照）を後援し、さまざまな協力をしています。また、児童福祉施設、老人養護施設などへの寄付支援や定期的なボランティア活動のほか、会員有志のクラブ活動によるチャリティーコンサートの実施など、より地域に根ざした交流親善活動を行っています。

このほかにも、テニスやゴルフなどのスポーツ大会、日本人が韓国語、韓国人が日本語の曲を披露する日韓カラオケ大会、スキーツアーなど、年間を通じて会員同士の親睦を深める企画が多数用意されています。レベル別の韓国語講座や、韓国文化、芸能、歴史など幅広いテーマを扱うセミナーなども開催されています。

また、海外に住む方にとっての大きな問題のひとつが「危機管理」ではないでしょうか。SJCは、大使館との連携のもと、安全マニュアルの発行、緊急時の連絡体制の整備などを行っています。災害や有事のおそれなどの際、登録された各会員のメールアドレスにテキストメッセージが送信されるようになっており、迅速かつ正確な情報提供が可能となっています。また、年に1回、緊急時を想定した緊急連絡網の実地訓練も行っています。

一人ひとりの小さな行動が 交流親善の大きな一歩に

さて、筆者も今年4月からソウル市に住むことになり、晴れてSJC会員となりました。会員になると、定期的にセミナーやイベントなどのお知らせがメールで届きます。参加を希望する場合は、事務局にメールで申し込むという流れが一般的です。早速、日本人学校周辺の清掃ボランティア活動や韓国プロ野球観戦セミナー（著名解説者による解説付き）など、興味深い案内が届いています。

また、ソウル事務所は法人会員として、「運輸サービス委員会」という分野別委員会に属しています。そこには政府系から不動産や飲食業まで、実にさまざまな企業・団体が属しており、委員会はさながら異業種交流会のようです。このように、韓国という共通点を軸に、会社や組織の枠を越えた新たなつながりを構築することができるのも、大きな魅力のひとつといえるのではないのでしょうか。



トンプイチョンドン
日本人が多く住む東部二村洞での清掃活動

SJC常務理事の松本氏いわく、「交流親善というと何か大変なことをしなければならない、と思われるかもしれないが、韓国で感じたことをそのまま日本にいる人に伝えるだけでも、大きな一歩となる。その積み重ねが両国の相互理解につながることを、より多くの韓国在住の方に感じてもらいたい」。SJCのあらゆる活動には、この言葉が深く浸透しているように感じます。

韓国という社会、それを築いてきた人々の営みや空気そのものを、「肌で感じる」ことでしか得られない経験があります。せっかくこの場所に住んでいるのだから、そのような経験を通して韓国という国をより深く知ってもらおうというSJCの活動は、韓国に住む日本人の強い味方であるだけでなく、永きにわたる日韓交流の礎となっています。